

平成22年度工学部・工学研究科運営方針 達成状況

2011/4/18

<研究科委員会>

分類	項目	実施(検討)内容	達成状況	評価	担当委員会等
重点項目	・学部入試倍率確保 (目標:前期入試で全学科3倍以上)	・高校への広報活動, HPの充実 ・複数回のオープンキャンパス開催 ・入学センターとの連携(対策, 分析等) ・保護者説明会の継続(本年度からは, できれば全学科・全学年で)	・推薦Ⅱ, 一般入試に関する情報を提供した。(パンフを高校へ送付(12月), 受験生へメールマガジンを送付(1月))・工学部HPに工学部案内を掲載した。(平成22年度新規, 21年度実施せず。) ・保護者説明会については, 平成19年度から実施しており, 平成22年度で4回目を実施した。平成22年度は8学科すべてが実施(当日参加者は480名)したが, 知能, 物質, 応数の3学科については, 1部の学年での実施となった。 ・入試倍率は前期日程平均で4.02倍, しかし機械2.96, 応数2.78が3倍に届かず。	○	入試委員会
	・大学院定員充足	・博士後期課程入学生の確保(10月入学, 留学生の積極的受入れ(協定校), 企業訪問等旅費の配分と活用等) ・准教授の主旨導教員への拡大	・主旨導教員に有資格准教授を加え, 博士後期課程充足のための方策を平成18年度から開始。平成22年度入学は22人と充足。 ・平成22年4月1日現在で8名の准教授が有資格者として, そのうち5名は主旨導教員として8名の学生を指導している。	◎	入試委員会, 専攻長・コース長
	・学部&大学院改組	・学部:情報収集と分析, 方針の提示(4月) ・大学院:H23以降, 博士後期課程定員の前期課程への振替と専攻数の見直し(当面は入学生の確保に全力を)	・学部:平成21年度の検討結果を4月の教授会で報告し, 検討・分析を継続している。 ・大学院:平成24年度改組案を策定し, 専攻長会議, 研究科委員会及び教員会で説明・意見聴取を行った。また, 平成23年2月8日文科省に説明, 意見交換を行った。	○	研究科長, 副研究科長, 研究教育組織検討委員会
	・留年率対策	・各学科で実施している対策の検証(情報共有と対策強化)	・教育方法改善委員会を4回開催し, 現状を分析するとともに, 今後の対策について検討した。(3月にも開催予定)(21年度は学務委員会で検討していたが, 22年度からこの委員会で対応することとなったもの。)	○	学務委員会
教育	・基礎教育, キャリア教育	・教養基礎科目の受講徹底(AO・推薦入試入学者) ・ポートフォリオ作成による達成度確認(キャリア教育)	・7学科の新入生にポートフォリオを実施し, 整理したデータを学科に提供した。(21年度も一部の学科で実施したが, 22年度は整理したデータを学科に提供した。)	○	各学科
	・英語教育(TOEIC)	・工業(技術)英語の開設など	・平成23年度入学生の全学共通科目教育課程において, 2年次で新たに英語2単位を履修させることとした。 ・物質工学科, 生物応用工学科に加え, 機械工学科でも工業(技術)英語を開設した。	◎	学務委員会
	・FD・教育体制	・JABEE受審に関係なく, 機関別認証評価に耐えることができる教育体制の確立 ・公開授業によるピアレビュー等の実施	・教育方法改善委員会を4回開催し, 本年度は留年対策効果の検証作業を開始した。来年度以降, 検証作業を継続して効果を確認する予定。 ・電気電子工学科では公開授業によりピアレビューを行い, 授業改善を図っている。	○	学務委員会, 各学科長

教育	・出口管理(卒業時達成度)	・学内試験等による卒業認定体制の検討	学部長, 学務委員会に検討依頼せず。	×	学務委員会
	・国際化	・交流協定大学・機関との学生交流の推進	江原大学校に1名(22. 9. 1~23. 1. 31), ウォータールー大学へ各2名(22. 9. 1~23. 1. 31, 22. 9. 1~23. 4. 30)計5名派遣している。ウォータールー大学へは、本年度から初めて物質工学科と生物応用工学科から学生が参加。	◎	全教員
研究	・各種研究プロジェクトの推進	・電子ディスプレイ, グリーンケミストリ, バイオサイエンス, 触媒, 持続的過疎社会形成, 山陰沿岸及び日本海的环境, 水産資源有効利用, 極限環境流体力学, タウインプロジェクト等から目玉研究を育成	ほとんどの研究グループが活発に研究を実施している。今後, 目玉につながると思われる。	○	担当教員・グループ
	・研究科としての目玉研究の支援	・H23概算要求: 防災シミュレータ, バイオサイエンス, 知的ものづくり, グリーンサステイナブルケミストリー ・学長・理事への強力な働きかけ(学長裁量経費等)	平成23年度概算要求事項では, 特別経費として「先進的のものづくり教育プログラムの開発」が新規採択となり, 「マリンナノファイバー活用の地域貢献プロジェクト」は平成23年度は継続となった。また, 「持続的過疎社会形成研究の推進」は特別経費から一般経費への組替となった。	◎	研究科長, 副研究科長, 担当教員&グループ
	・研究科としての支援	・中堅・若手研究者への研究助成の継続	例年同様, 中堅・若手研究者へ研究助成を行った。総額300万円。	○	研究科長
	・成果等の情報発信	・工学部HP等による迅速な広報	教員から学会での受賞等の連絡があった場合は, 直ちに工学部HPトップの新着情報へ掲載するようにした。	○	広報委員会
	・資金の獲得	・科学研究費等の獲得の努力	応募件数・採択件数でみると, 平成21年度の採択率は16.7%(応募件数102, 採択件数17)に対し, 平成22年度の採択率は25.3%(応募件数95, 採択件数24件)と採択率は上昇している。	○	全教員
	・横断的プロジェクト	・医農工連携研究の推進(骨治療, 声帯等)	骨強度に及ぼすラジオ波焼灼治療の影響を3点曲げ試験とねじり試験により調べ, 強度評価には3点曲げが良いことを明らかにした。	○	担当教員・グループ
	・国際化	・交流協定大学・機関との共同研究の推進	・中国東北大学との合同シンポジウムを中国瀋陽で開催(平成22年9月25日~28日, 院生10名, 教員6名が参加)。研究発表等を行い, 学術交流の推進を図った。	◎	担当教員・グループ
社会貢献	・地域との密接な連携	・産官学の共同研究の拡大(西部・中部地域へのシーズ発表等) ・インターンシップへの学生参加 ・公開講座や出前授業, ボランティア講演への参画 ・地域人材育成への協力(社会人教育等)	・工学部では, 各企業等主催のインターンシップに学生が参加した。(20企業等, 46名(長期インターンシップ:25名, 短期インターンシップ21名)) ・第6回工学研究科西部地区出前技術講演会(9月24日, 講師4人, 聴衆約60人) ・第2回工学研究科中部地区出前技術講演会(2月2日, 講師2人, 聴衆約30人)	◎	研究科長, 副研究科長

組織・運営	・ものづくり教育実践センター	<ul style="list-style-type: none"> ・学内・学外に対する事業の拡大 ・H23概算要求:「とりだい・ものづくりセンター」構想(ものづくりネットワーク拠点化構想⇒研究支援, 地域貢献, 研究推進) 	<ul style="list-style-type: none"> ・工学部内5学科を対象に実践プロジェクト教育を継続推進した。 ・昨年同様, 地域の子ども達対象のものづくり教育を進めた。 ・学内から幅広く委託生産工事を受注。特に鳥取市から「風紋発生風洞」を受注納入し, 新聞で紹介されるなど好評を得た。 ・平成23年度特別経費として「先進的のものづくり教育プログラムの開発」が新規採択になった。 	◎	センター運営委員会
	・附属電子ディスプレイ研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ・デバイス開発部門に加え産業創成部門やメモリー研究部門等を設置 ・学部から学内(地農医工連携)に展開 ・各種助成金への申請(学内:学長経費・地域貢献支援費・乾燥地研究センター共同研究, 学外:鳥取県基盤産業育成事業・FPD人材育成事業・文科省科学振興調整費) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎物性研究部門では, 10件以上の特許と30件以上の学術論文を公表した。 ・産業創成部門では公開講座や地域支援事業(いずれも採択), 乾燥地研究センターとの共同研究(農工連携:3件採択)を展開した。メモリー研究部門等を設置。 ・医療情報電子部門は附属病院との間で医工連携研究会を設置して活動している。 ・各種助成金への申請(学内:学長経費・地域貢献支援費(約50万円)・乾燥地研究センター共同研究(3件で約100万円), 学外:鳥取県基盤産業育成事業(約3000万円)・FPD人材育成事業(約1500万円を予定)・文科省概算要求(申請予定)・高大接続プロジェクト(約1000万円)・MEMSに関する寄附講座(約2000万円)) 	◎	センター運営委員会
	・技術部	<ul style="list-style-type: none"> ・学部・学内での教育・研究支援の充実 ・地域貢献の継続と拡大(小中高校への出前授業等) ・将来を見据えた新規採用分野の調査と決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度出前おもしろ実験室として, 東部・中部の小学校, 公民館等へ11回出向している。 ・昨年度の分野調査結果をふまえて, 新規採用者5名を採用した。 	○	技術部運営委員会
	・教員組織	<ul style="list-style-type: none"> ・部局化の実質化(専攻単位での人事等の運営) 	本年度は特段の進展はなし。	×	各専攻長
	・広報	<ul style="list-style-type: none"> ・工学部HPの充実とタイムリーな広報 	工学部HPをリニューアルし, 見やすいHPになった。また, 今まではなかった『新着情報』を工学部HPトップに掲載するようにした。各学科の不統一が問題か?	○	広報委員会
	・教員会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員への学部方針の伝達, 広く教員からの意見の吸い上げと運営へのフィードバック 	7月20日(火), 12月13日(月), 12月16日(木)の計3回開催し, 主に大学院改組に関して執行部の方針を説明するとともに, 教員から意見の吸い上げを行った。	○	研究科長, 副研究科長